

蔵出しお宝ニュース

— 第 31 号 —

三原市歴史民俗資料館では、所蔵資料の本格的な整理・展示のリニューアルに取り組んでいます。

本紙では、資料館内で長らく眠っていた三原市ゆかりの貴重な資料の解説と行事の案内・紹介などを随時行って参ります。

資料館所蔵 掛軸を整理

「第2回 蔵出しお宝展」が無事終了いたしまして、当館所蔵の資料整理を進めています。当館にはたくさんの書画作品が保存されており、現在は作品の内容を確認しているところです。複製や拓本を表装したものもありますが、三原浅野家の学政に参与し、糸崎の松浜港を開くことを建議した宇都宮龍山^{うつのみやりゅうざん}、医師で種痘を山陽路で最初に施したといわれる吉田石痴^{よしだ せきち}、宇都宮龍山に学び明善堂の助教授となった長谷川桜南^{はせがわおうなん}などが元治元（1864）年に広島の際中で寄せ書きをした松の画賛や、尾道の女性画家・平田玉蘊^{ひらた ぎよく}の妹で、三原に嫁いでいた大原玉葆^{おおはらぎよくほ}の寒梅図、福山藩校誠之館の教授を務めた門田朴斎^{もんでんぼくさい}の五言絶句など、芸備地方ゆかりの作品が多くありました。



宇都宮龍山・吉田石痴・
長谷川桜南などによる画賛

かつては軸を床に掛け、四季折々の風情を感じることを一般的に行っていましたが、現在は床のない家が多くなりました。茶道の世界では軸に書かれている文言が、催される茶会の主題となるため、亭主はもてなすお客様のことを考えながら軸を選びます。年の瀬の茶会で言えば「無事は貴人^{ぶじこれきにん}」などがよく用いられます。書画は書いた人物と向き合うことができ、作者の心情や性格を顕著に感じ取ることができます。当館でも1階ロビーの置床に季節の軸と花を飾っています。

また、掛軸は掛けたままでは作品が焼けてきますし、仕舞ったままでもシミなどができて作品を痛ませる要因になります。今年も残すところあとわずかとなって参りました。新年を迎えるにあたり、皆様も床や壁に軸を掛けてみられてはいかがでしょうか。

資料館マメ知識 「かじしょうぞく 火事装束」とは？



当館所蔵の火事装束

「火事と喧嘩は江戸の華」という言葉がありますが、火事は戦場以上の修羅場ですから、身体をかけて立ち向かう人々は、色彩や意匠の凝った個性豊かな装束に身を包んで消火に当たりました。

火事兜（火事頭巾）あるいは陣笠・火事羽織・胸当・石帯・野袴などからなります。夜でも誰かよくわかるように、紋を大きく付けるのが決まりです。『忠臣蔵』で大石内蔵助が討ち入りの場面で着用している姿がおなじみです。

当館には火事装束を4点所蔵しております。いずれも東町で造酒屋を営んでいた家に伝わったものです。上流武家が着用するような立派な仕立てで、当時の三原商人の格式を示す貴重な資料です。

おき どん しゅん じゅう 置 床 春 秋



掛物 そうたんぎつね 宗旦 狐の図

お本可多能 与春て人耳ハ 心せ与
古路毛ハきて毛 起津ね奈りケ梨

花入 唐銅鶴首 花 季のもの

《訂正》

前号(第30号)の掛物は、正しくは「えまきこう 江馬細香 筆
箕曲佶平 宛 書簡」でした。訂正してお詫び申し上げます。

火事装束展

日時：平成25年12月17日（火）～
1月17日（金）

9：30～19：00（土日は18：15まで）

※ただし、12月23日（月）、12月28日（土）～1月4日（土）、1月13日（月）は休館日
場所：三原市立中央図書館2階 展示ケース
協力：みはらアーカイブス



発行 平成25（2013）年 12月19日
〒723-0015 三原市円一町二丁目3番2号
三原市歴史民俗資料館
TEL 0848-62-5595

※本冊子に掲載の写真などは、許可なく転用などしないようお願い申し上げます。